



わたしのおすすめ

体力づくり、仲間づくりで元気に



ふれあい
ニュースポーツ教室生
吉田 嬉子さん (茅町)

運動がしたいなと思っていたところ、広報紙で教室生募集の記事を見付けて、この教室に参加しました。1人で参加したのですが、ここでたく

さんの仲間ができました。

この教室ではソフトバレー、フットサル、バランスポール、インディアカなど毎週違うニュースポーツをします。とても楽しく、飽きることがありません。何もかも忘れて体を動かすことはストレス解消になりますし、仲間と楽しく過ごす時間は何よりです。

今、こんなに運動できるのが自分でも不思議なくらい。生活に張りも出てきました。教室が終わった後「よし、また頑張ろう」と思えます。仲間

から元気ももらう感じで、とても励まされます。運動が不得意でも大丈夫。もっとたくさんの人に参加してもらって多くの人と出会いたいですね。



秋のスポーツ教室 ふれあいニュースポーツ

教室生募集!

とき 9月12日～11月21日の水曜日(全10回)

午前9時30分～11時30分

ところ 津山総合体育館ほか

対象 市内在住の人

内容 ニュースポーツなど

定員 50人

参加費 3,000円(傷害保険料を含む)

申込期間 8月17日(金)～31日(金)

問い合わせ先 スポーツ課 ☎24-0202

25ページに関連記事あり

津山に嫁いで6年近く。とても良い所で大変気に入っています。県外から訪れた友人が津山駅に到着した時「銀行のATM(現金自動預け入れ支払い機)はどこ?」とよく尋ねます。桜百選の鶴山公園などへ多くの観光客が訪れる津山なのに、駅周辺にATMが無いのが不思議だと言うのです。私も津山に戻った時、大手町の銀行まで大きな荷物を持って歩いた経験があ

津山駅に
銀行ATMを
設置して

わたしも
ひとつと

津山に嫁いで6年近く。とても良い所で大変気に入っています。県外から訪れた友人が津山駅に到着した時「銀行のATM(現金自動預け入れ支払い機)はどこ?」とよく尋ねます。桜百選の鶴山公園などへ多くの観光客が訪れる津山なのに、駅周辺にATMが無いのが不思議だと言うのです。私も津山に戻った時、大手町の銀行まで大きな荷物を持って歩いた経験があ



朽化が進んだため廃止することになりました。その跡には衆楽園や運動公園などを利用する際、安全・スムーズに駐車できるよう8月中旬に駐車場を整備します。

山北の
市営プール跡は
どうなるの?

ります。駅にあれば便利だし活気につながると思います。(下高倉西・女性)



運びとなったのです。その時は実行委員として参加し、音楽祭にも出演しました。印象に残っている音楽祭は? 第5回に出演した神尾真由子さん(当時14歳)は先般のチャイコフスキー国際コンクールバイオリン部門で優勝しましたね。彼女の祖母は旧中央町出身。津山高校で私と同級だった関係で出演が実現しました。音色が豊かで優れた音楽性を持ち、とても中学生とは思えませんでした。「世界に羽ばたく天才少女だ」と感じましたが、その通りになりましたね。その後も毎回、素晴らしい人が出演しています。今回の音楽祭のお薦めは?

「マラー作曲交響曲第10番」です。これはマラーの死により未完成となっていたものを残された音楽スケッチと断片的なメモを手掛かりにデリック・クック(イギリス音楽家)が補筆し、

多くの市民も参加する津山国際総合音楽祭。「音楽グループに参加するのも楽しいですよ」と江見さん。何か1つ楽器を。楽器ができれば歌を。まずは音楽祭に足を運んでみましょう。

1楽章から5楽章までまとめた曲。1楽章はほぼマラーの作曲であるといわれています。今回は、渡邊暁雄先生のご子息渡邊康雄先生の指揮の下、この全楽章が演奏されます。目指すところは? 私は大学を卒業後、銀行に7年間勤めていました。しかし音楽への思いを断ち切れず、再度大学へ通い、音楽の素晴らしさや楽しさを次の世代に伝えていこうと音楽教師になりました。音楽のある生活は最高です。様々なジャンルの音楽の中で自分に合うものがあるはず。演歌でもジャズでもいい。これを基調に音の輪を広げましょう。人口の0.4%ぐらいといわれているクラシック音楽の愛好家を津山でももっと増やしてゆきたい。そして音楽の流れるまち、歌のあふれるまちにしていきたいですね。音楽都市津山を世界に発信したいものです。

多くの市民も参加する津山国際総合音楽祭。「音楽グループに参加するのも楽しいですよ」と江見さん。何か1つ楽器を。楽器ができれば歌を。まずは音楽祭に足を運んでみましょう。

未来をひびく 津山人

音楽が流れ、歌のあふれるまちに

津山第九をうたう会会長
津山国際総合音楽祭プログラム委員

江見恭彦さん(山北)

今年、9月22日(土)から10月4日(木)まで開かれる第7回津山国際総合音楽祭のプログラム委員で、長年、津山の音楽の発展に寄与されている江見恭彦さんにお話を伺いました。

津山での音楽指導はいつから?

昭和46年に音楽教師として津山高校に赴任し、合唱部の顧問を勤めました。NHK合唱コンクールで県下優勝し、以後全国大会に出場できるまでになりました。その後、市民合唱団を結成。音楽コンクールなどの活動も続けています。

大きな転機は昭和57年。日本を代表する指揮者で日本フィルハーモニー交響楽団創設指揮者の渡邊暁雄先生(故人)が当時津山にあった作陽音大に赴任されました。念願だった市民によるベートーベンの第九交響曲の演奏が、渡邊先生の「私が指揮



▲第5回に出演した神尾真由子さん

をしよう」という一言で実現したのです。「津山第九をうたう会」が結成され、市民オーケストラと昭和58年12月に初公演。それからは年末の恒例行事として定着し、今年も12月2日(日)に第25回記念公演を行う予定です。津山国際総合音楽祭については? 渡邊先生は「音楽文化の振興は地方から」と提唱。市民の音楽レベルを上げ、世界に発信しようという気運がどんどん高まってきました。津山をオーストリアのザルツブルグのようにしたいと。こうして、昭和62年に1回目の音楽祭が開催される